

その他課題に対する検討

◎JIS Z 3110のD-RT試験実施技術者要件

- ① JIS Z 2305「非破壊試験技術者の資格及び認証」に記載される適切なレベルの資格を有していること。（これと同等の規定に従って取得する資格も含む。）
- ② D-RTにおける教育及び訓練を受けていること。

◎試験技術者の教育訓練の現状

JIS Z 2305に基づく資格認証は、F-RTを基本とした資格認証であるが、一般社団法人 日本非破壊検査協会が発行しているテキストにはD-RTに関する内容が一部掲載されており、学科試験にもD-RTの内容が出題されている。

D-RTの教育訓練について調査した結果、専門の教育訓練を実施している団体は1団体（一般社団法人 日本溶接協会）のみであった。

◎特定屋外貯蔵タンクのD-RTを実施する技術者に求められる要件（案）

JIS Z 3110に基づく試験実施技術者要件を満足するように、適切なレベルの資格を保有していること、D-RTにおける教育及び訓練を受けていることが望ましい。

また、D-RTにおける教育及び訓練については、今後、産業界におけるD-RT活用事例の拡大に伴い、こうした教育訓練を実施する団体が増えた場合は、自社による教育訓練のほか、第三者機関が実施する専門の教育訓練を受けていることが望ましい。

JIS Z 3110はD-RTの撮影技術が規定化された規格であり、D-RT実施結果の判定方法等については契約当事者間の協議に委ねられている。

今回、TP-1を用いた室内試験により、D-RTはF-RTと同程度のきず検出が可能であり、危規則第20条の7第2項に規定される基準に基づく判定も可能であることを確認できた。



特定屋外貯蔵タンクにD-RTを適用した場合は、その結果を危規則第20条の7第2項に従ってきず像の分類及び合否判定を行い、その結果を記録する。